

推進員として1人の声から地域の課題へ

～若年性認知症の人の居場所づくりを通じて～



福井県福井市
 福井中央北包括支援センター（委託）
 吉田祐子（社会福祉士）



<自治体の基礎情報>

人口	264.277人	65歳以上人口	74.791人
高齢化率	28.3%	第6期介護保険費	(年)73.200円
認知症サポーター数	人	要介護認定率	17.9%
日常生活圏域数	13	包括数	直営:0 委託:13

認知症地域支援推進員数:1名(うち行政:0名、直営:0名、委託:1名)

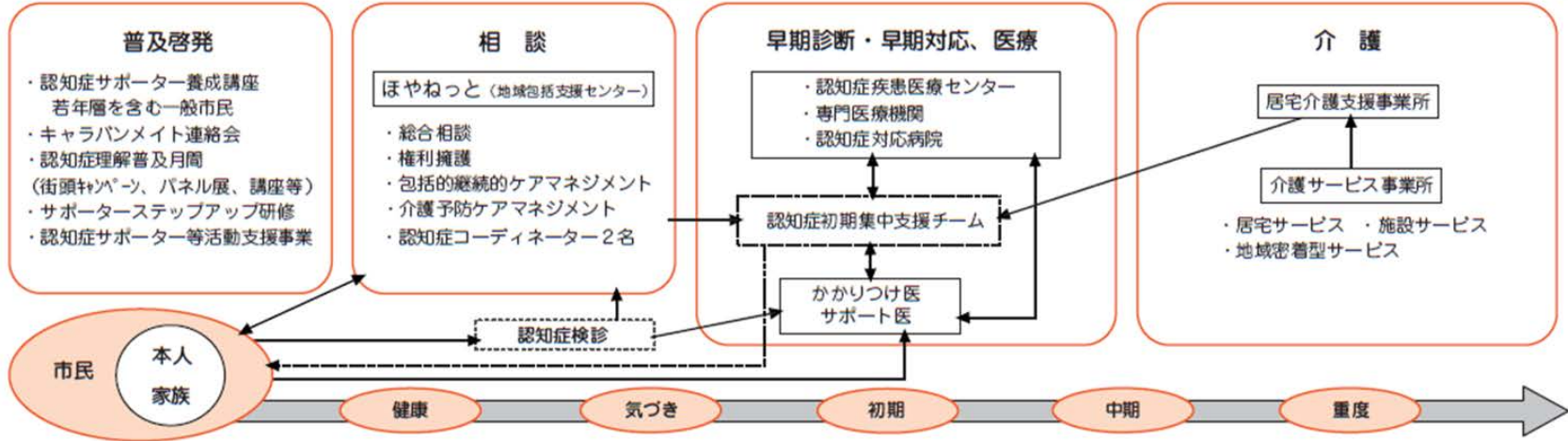
地域の特徴:福井県北部の県庁所在地、総面積の半分を山林が占め、山と海に囲まれている。年間を通じて降水量が多く、冬季には積雪があるが最近は暖冬で積雪も少ない。市内中心部は、高齢者のみの世帯や単身世帯も多い。郊外では高齢化率が40%を超える地区もある。交通インフラ整備は十分ではなく、移動手段は車にたよることが多い。



福井市の地域包括支援センター

日常生活圏域数	13か所
委託型地域包括支援センター	13か所
認知症コーディネーター	各2名
(H23年度より各包括支援センターに配置)	
認知症地域支援推進員	1名
(H23年度より中央北包括支援センターに配置 同法人が認知症疾患医療センター受託)	
認知症初期集中支援チーム	1チーム

認知症になっても住みなれた地域で安心して暮らせる支援体制



予防

介護予防事業

- 自治会型デイホーム
- いきいき教室
- 簡易型予防教室
- 健康教室

介護者支援

- 介護者のつどい
- 男性介護者の集い
- 認知症カフェ

権利擁護

- 高齢者虐待防止ネットワーク運営事業
- 成年後見制度支援事業
- 市民後見人養成

認知症コーディネーター 【各エリア内での課題把握・ネットワーク構築】

- 理解普及の取組
- 認知症サポーター養成講座
- 認知症相談
- 認知症初期集中支援チームとの連携
- 地域づくり

認知症地域支援推進員 【市全体の課題把握・ネットワーク構築】

- 理解普及の取組
- 介護従事者への認知症対応力向上研修
- 地域包括支援センター、居宅介護事業所、施設での相談、支援の推進
- 医療と介護、地域の社会資源のネットワーク構築

地域づくり

- 地域ケア会議 (市、警察・消防などの行政、医師、ケアマネ、サービス事業所、社会福祉協議会、民生委員、自治会等)
- 福井市あんしん見守りネットワーク事業
- 協力団体：医療機関、薬局、新聞配達、電車・バス等交通事業者、運輸・食品等配送事業者、ガス水道事業者、電気事業者等、小売・商店街
- 様々な地域の団体、介護サービス事業者連絡会 (ひとり歩き見守りネットワーク)
- 福井市「認知症の人にやさしいお店等」認定事業
- ひとり歩き模範訓練
- 認知症ケアパスの活用

福井市認知症施策検討委員会

- 施策の方向性の検討
- 事業報告
- 進捗管理
- 認知症初期集中支援チーム検討委員会
- 認知症ケアパスの作成検討委員会

福井市の 認知症地域支援推進員の役割

○ 市全体で実施することが適している事業

- 介護者支援（男性介護者のつどい）
- 若年性認知症に関すること
- 認知症対応力向上研修企画

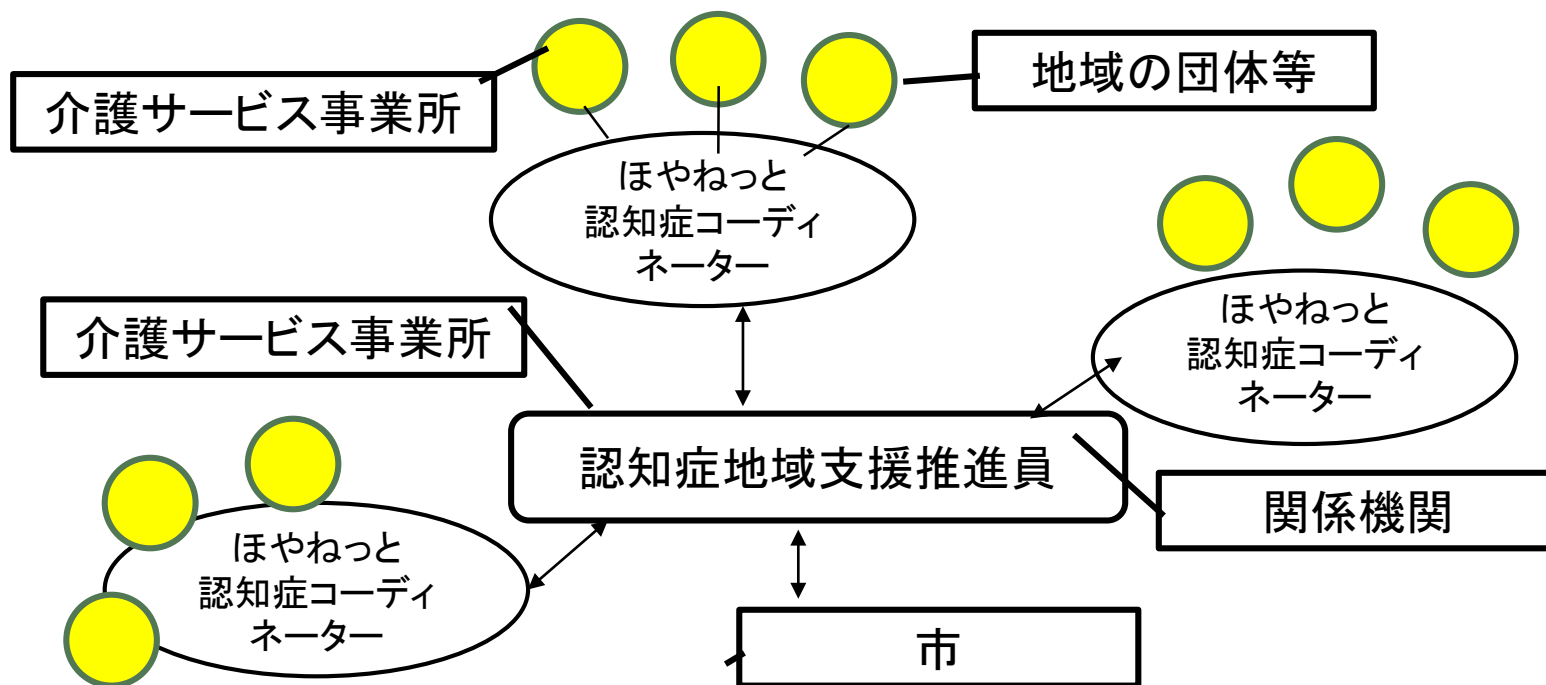
○ 各ほやねっとへの活動の協力等

事業への参加

認知症地域支援推進員と 認知症コーディネーターの役割

認知症地域支援推進員が

市や他機関、コーディネーターへの橋渡し



私の推進員活動の歩み

対象	事業／取組み	連携機関	役割の分類
包括 (認知症コーディネーター)	認知症コーディネーター研修	市	相談体制構築 ネットワーク構築 対応力向上
介護サービス事業所職員、ケアマネ	研修会(認知症ケア、介護者支援)	市、市事業所連絡会	ネットワーク構築 対応力向上 相談体制構築 介護者支援
男性介護者	男性介護者のつどい	市、包括(認知症コーディネーター)、講座開催時の協力(介護サービス事業所、心理士、介護福祉士会、医師、認知症認定看護師、消防署、税務署、他の家族会など)	ネットワーク構築 対応力向上 介護者支援
一般市民	認知症理解普及月間 (講演会・街頭キャンペーンなど)	市、包括、介護サービス事業所、キャラバンメイト、ボランティア、ショッピングセンター、警察、図書館、	啓発 ネットワーク構築
認知症サポーター養成講座受講の小中学生	★ロバマスコット づくりと配布	市、包括(認知症コーディネーター)、認知症サポーター、ボランティアセンター、市社協サロン、よろず茶屋、デイホーム、介護事業所、認知症カフェなど	啓発 ネットワーク構築
介護サービス事業所職員、ケアマネ、医療機関	若年性認知症の方への支援体制づくり	市、専門医療機関、介護事業所、その他関連機関、	対応力向上 ネットワーク構築
A地区住民	ひとり歩き模擬訓練	市、社協(市、地区)、民生委員、福祉委員、公民館、自治会役員関係者、介護事業所、地域のかかりつけ医、警察、	対応力向上 啓発 ネットワーク構築

新オレンジプラン

若年性認知症施策の強化

- ・認知症の人やその家族の視点の重視
- ・認知症の理解を深めるための普及啓発の促進

日々の相談のなかから、

包括に相談に来る若年性認知症の人は

要介護の状態まで進行している

「まだまだ本人は若いから、お年寄りと一緒に
のところの介護保険のデイサービスとかを使う
のが嫌だった」

この間に推進員として 取り組んでいたこと

○自身が制度や若年性認知症の勉強をした

○若年性認知症の人と家族の会で

直接に出会う機会をもっていた

○関係機関にいろいろな話を聞いてまわった

※市 地域包括ケア推進課岡田さんと一緒に

★推進員が、若年性認知症のことにも

取り組もうとしているらしい、、という声が

広まっていった

こんな人がいるんだけど

H26年	若年性認知症に関する課題の意見交換	関係者が集まって情報交換し、医療にたどり着くまでに時間を要すこと、相談体制が十分でないこと、介護サービスでの受け皿が整っていないことがわかった
H27年11月	若年性認知症に関する制度の学習会	前回の課題から、とくに経済的な支援や障害の制度を学び、若年性認知症に関心をもってもらうことができた
H28年3月	若年性認知症に関する意見交換会	実際の事例から制度やサービスの利用や介入の方法を学び、特に介護サービスでの支援が早期に開始できるように開催した
H28年11月 ～ H29年3月	若年性認知症にかかる医療機関訪問	診断を受けた人が早期に医療以外の支援が受けられるように相談先の紹介（県若年性認知症相談窓口）をし、課題の把握をおこなった

H29年7月	若年性認知症に関する研修会	市内居宅、包括ケアマネ向けに制度の勉強会をおこない、 実際の認知症と診断されて直後からの支援の流れ やハンドブックについて紹介ができた
H29年9月	若年性認知症に関する出張相談会	日曜日、平日の夜 に相談会を実施したが問い合わせはあったものの、実際に来られる人は誰もいなかった
H29年9月	若年性認知症に関するミニシンポジウム	関係者、本人家族が話をし、 障がいの支援関係者も参加 をされた
H30.2月	若年性認知症に関する障がい支援関係者の研修会	障がいサービス利用をされるに至った方の事例 をもとに、今のそれぞれの事業所の取り組みでできることなどを考える機会とした

堀江さんとの出会い H27

若年性認知症のご本人54歳（H27当時）

市→ほやねっと→介護サービス利用

（要介護1）→認知症カフェでの

ボランティアを併用

「**話すのが好き**、弁論部だったんです

昔はよく地域に出向いてオレオレ詐欺の話をしたんです」

かかわりを通じて

堀江さんの、やりたいことの応援

⇒ **その場所をつくること**

⇒ 自分の担当エリアの公民館なら

取組みやすかった

当事者の声を福井で発信できる人かも！

福井市認知症講演会

H27.9 富士宮市 佐野光孝氏

H28.12 仙台市 丹野智文氏(対談)

堺市 曾根勝一道氏

若年性認知症の診断をうけても、
やりたいことをして、日々を楽しむ。

「認知症になってもできることはたくさんある」

福井でも、こんな風に暮らすひとが増えてほしい

思いの発信H29.5



「デイサービスはとっても楽しいです。

元気をもらえる場所です。」

「嫁さんがいてくれるおかげで毎日楽しいです」

これまでの取組みでわかったこと

- 1 普及啓発の必要
- 2 診断を受けてから適切な相談支援に早期につながりにくく、介護サービスの利用が高齢者と比べて時間を要する→空白の時間
- 3 障害サービスでの支援がすすんでいない(コーディネートする人がいない、障害のサービス利用ができる状態像の人が相談につながっていない、受け皿としての体制整備が不十分)
- 4 若年性認知症に特化した介護サービスはまだ確立されていないが、現状のケアで工夫しながら支援ができている

若年性認知症のご本人の言葉

「福井のなかに
わたしと同じ病気の人
は
いったい何人いるの？」

同じように悩む**仲間との出会い**が必要
相談窓口の機能にプラスして

若年性認知症支援コーディネーターと連携して

福井市内で、

若年性認知症の人同士の居場所をつくる

(特にサービス利用に至らない方)

→介護や障害サービスの利用などをすすめるわけではなく、

まずは外に出るきっかけ

「ほっとできる場所、

安心できる場所、

仲間と出会える場所

楽しいなと感じられる場所」

とにかく、一度集まってみよう



集まることが大事、作業にも得手不得手がある
初対面ではあるが、同じ病気であることでどこか安心感が
得られているような雰囲気

じょいふる291

- ・就労支援事業所の見学
- ・グループホームの見学と入所者との交流
- ・軽作業(メモ帳づくり、古切手収集)
- ・鯖江西山公園へお花見
- ・認知症の人と家族の会全研に向けての取組



半年ほど過ぎた頃には

- ・認知症デイでお茶出しボランティア
- ・障害者としての雇用で一般企業での就労
- ・障害サービスで就労支援B型事業所の利用
- ・介護サービスの利用

それぞれの人が
何らかの社会資源につながっている



じょいふるは 日常の継続した居場所ではない

福井市認知症講演会

H30.3 名古屋市 山田真由美氏

講演会終了後に出張オレンジドア

【認知症のご本人のみのミーティング】

- ・ときどきこんな場があるといいわ
- ・くよくよしているとだめやね
- ・認知症になっているけど気にしてない

本人のみで、いつもの雰囲気と違ったご本人たちの表情や言葉

本人のみ同志で 交流をする機会、場の設定に切り替えていけるといいな

認知症のご本人

自分のためのじょいふるやから。

これからは1人で来るわ。

仕事はしているけれど来れるときには、役に立てることがあるなら来るよ。

明るく前向きな人柄 メディアで取り上げてもらえると広くたくさんの人に知ってもらえるかも

ご家族(妻)

自分も楽しく参加していたけれど、一緒にいると本人が気を使っているのがよくわかる。これからは1人でじょいふるに参加してもらおうようにするね。

先回りの心配ばかりしてしまってた自分がいたのがわかる。

本人と家族を分けたつどいをする際の、家族側の想いを まとめてくれる人になってもらおう

推進員としての気づき

- ・1人の声からとにかくできることを
やってみることも大切
- ・やりながら、認知症の人と家族と私たちと
関わる人で一緒に何が必要なのかを考えて
いくことでも進んでいける

得られた効果

- ・各ほやねっつとでも、ご本人の声を届けようという動きがでてきた
- ・じょいふる291へ参加してほしいと思う人がいるんだけど・・・と同行される認知症コーディネーターが出てきた
- ・若年性認知症への取り組みをメディアで発信ができた

課題と感じていること

- ・とにかく空白の期間をうめる際に必要な集まりの場として集まったが、**方向性がはっきりとしなくなってきた**(本人中心の日々の居場所？つどい？家族は？)
- ・県若年性認知症支援コーディネーターとの**役割の分担**
 - どちらがどこまで何を支援して関わっていくのか
- ・**推進員**としては何をすべきなのか
- ・ほやねっととの連携・・・自分たちの支援の対象者ではない？！

今後の方向性

- すでにある会
ほや座くらぶとの**役割等の整理**
- 推進員としてどこまで関わっていくのか
(広げる、みえる化)
- **ほやねっと**(包括)の人にどのようにつながりをつくっていくか
- **その他の関係者、関係機関とのつながりづくり**をどのようにしていくか
- 本人交流会をどんなイメージでしていくのか

認知症地域支援推進員としての 気づき

推進員として、
自分自身を**固定の役割**にしないこと
一緒に悩む仲間、耕す役、
旗振り役、つなげる役…



全国の推進員さんへのメッセージ

- ・焦らずに、**今やってきたことやっていることを確認しながら**意味を見出してみる
- ・わからないときには、**1人の人の声**に耳を傾ける

一緒に少しずつ築いていくことで、認知症の人や家族と伴にすすむ仲間を全国の各地で増やしていきましょう